

特別活動学習指導研究委員会

一 研究テーマ

子ども一人ひとりの思いや考えを生かし，考えを深められる集団の育成

二 テーマ設定の理由

各教科で習得・活用された学びを実践化する特性がある特別活動は，各教科等に横断的に機能する存在であるといえる。また，「主体的・対話的で深い学び」を実体験する場でもある。しかしながら，特別活動は，各教師の活動や取り組みの質，評価の在り方等が十分に検討・吟味されることなく，活動だけが単純に継続されていくことも少なくない。そこで「主体的…題材の必要感，活動における自己有用感の高まり」「対話的…合意形成の工夫」「深い学び…集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる集団及び自己の問題の解決への活用」の観点を大事にしながら実践を振り返り，より良い実践の在り方について考えていけるように，本テーマを設定した。

(1) 〈知識及び技能〉

多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し，行動の仕方を身に付けるようにする。

(2) 〈思考力，判断力，表現力等〉

集団や自己の生活，人間関係の課題を見だし，解決するために話し合い，合意形成を図ったり，意思決定したりすることができるようにする。

(3) 〈学びに向かう力，人間性等〉

自主的，実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして，集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに，自己の生き方についての考えを深め，自己実現を図ろうとする態度を養う。

三 研究の経過

- | | | | |
|-----|-------------|--------|-----------------------|
| (1) | 5月 2日 (火) | 教育会館 | 総委員会，委員顔合わせ，年間活動の見通し等 |
| (2) | 6月 13日 (火) | 中塩田小学校 | 今年度の活動について，実践事例について等 |
| (3) | 6月 29日 (木) | 塩尻小学校 | 教育課程研究協議会事前授業参観 |
| (4) | 7月 26日 (水) | 中塩田小学校 | 実践事例検証①，教育課程午後の部について① |
| (5) | 8月 29日 (火) | 中塩田小学校 | 実践事例検証②，教育課程午後の部について② |
| (6) | 9月 6日 (水) | 塩尻小学校 | 教育課程研究協議会への参加，午後の部運営 |
| (7) | 11月 27日 (月) | 教育会館 | 総委員会，研究のまとめ，今年度の反省等 |
| (8) | 1月 30日 (火) | 教育会館 | 研究発表会 |

四 研究の内容

1. 教育課程研究協議会 上田市立塩尻小学校の実践に学ぶ

【特別活動研究テーマ】

友と話し合いながら自分の『思い』や『考え』を深めていく学級活動

【議題】

1年生ともっと仲良くなれる「なかよし会」をひらこう（第2学年）

学級活動（1）ア 学級や学校における生活上の諸課題の解決

【議題について】

①児童の実態

本学級の児童は、明るく個性的な児童が多い。休み時間になると、クラスのほとんどの児童が元気よく外へ飛び出し、おにごっこやサッカーをして遊ぶ姿が多く見られる。

学級活動については、これまでにさまざまな議題について話し合ってきた。しかし、学級会の際に、友達の意見が最後まで聞けず口を挟んでしまったり、仲良しの友達の意見に流されてしまったりする児童もいる。また、意見を出し合う場面では、活発に意見を発表する姿が多く見られたが、比べ合ったりまとめたりする活動では、教師主導で進めてしまったため、自分たちで話し合っ解決していくという経験が乏しい。

昨年度、2年2組の児童は、保育園との交流会を通して1年生と関わった経験があり、「仲良くなりたい」という意識が芽生えてきている。そこで、7月中旬になかよし会を行ったが、「1年生に上手く声をかけられなかった」「声はかけられたけど、まだ仲良くなっていない」などの感想を書いた児童は多く見られた。

②議題選定の理由と学級会に寄せる担任の考え

議題は、7月中旬に行ったなかよし会での振り返りで出てきた課題をもとに、児童と選定した。なかよし会では「今までとちがう遊びをした方が、1年生が楽しめる」という意見から、「かくれおに」と「王さまドッチ」に決まった。仲良くするために「1年生と一緒にやる」「2年生だけでかくれない」などの工夫が出された。なかよし会では、かくれおにの時間が長かったので、王さまドッチはルール説明しか行うことができなかったが、自分から1年生に話しかけに行こうとする姿や、担任が「集合」と声をかけても、1年生に最後まで「バイバイ」と手を振っている姿が見られた。しかし、振り返りでは「うまく声をかけられなかった」「まだ、2～3人しか仲良くなれていない」「もっと『どうだった？』『たのしかった？』と聞けばよかった」「もっとおしゃべりしたい」「また今度なかよし会をするときもYちゃんに声をかけたい」などの感想を書いていた。

児童が「もういちどなかよし会をひらいて、もっと仲良くなりたい」という願いをもち始めたため、本時の議題を選定した。

今までの1年生との関わりを振り返りながら意見を比べ合ったり、1年生とより関わり合えるような遊びや工夫を話し合ったり、折り合いをつけたりしながら、協力して計画を立てることを通して、よりよい学級の人間関係を築いてほしいと考えている。

【第1学年及び第2学年の評価規準】

| | | |
|---|--|---|
| よりよい生活を築くための知識・技能 | 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 | 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度 |
| みんなで学級生活を楽しくする他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。 | 学級生活を楽しくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲よく助け合って実践している。 | 学級生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。 |

【前時の活動】

| 学習活動 | 日時 | 児童の活動 | 指導上の留意点 | ◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】 |
|----------|------|---|--|---|
| 問題の発見・確認 | 8/30 | ・なかよし会の振り返りを全体で行う。 ・振り返りから出た1年生と仲良くなるポイント(なかよしポイントのたね)を決め出す。 ・どんな遊びにしたいか短冊に記入し、教室に掲示する。 また、その遊びを選んだ理由をワークシートに記入しておく。 | ・話し合うことや決まっていることが共通認識できるよう、必要に応じて助言する。 | ◎目的にあった意見を考え、判断し、ワークシートと短冊に書くことができる。 (思考・判断・表現) 【ワークシート・短冊】 |

【本時案】

(1) 本時の主眼

1回目のなかよし会の振り返りから、もっと1年生と仲良くなりたいと、『なかよしポイントのたね』を決めたり、どんな遊びにしたいか考えたりした子どもたちが、自分の意見を言ったり友達の意見をよく聞いたり、互いの意見を比べ合ったりすることを通して、次のなかよし会で行う遊びを決め出していくことができる。

議題：1年生ともっとなかよくなれる『なかよし会』をひらこう

議題の提案理由：1年生や自分たちも1回目のなかよし会は楽しめたけど、1年生と仲良くなかったとは言えない。1年生の名前をあまり覚えてなかったり、自分から話しかけられなかったりしたので、もっと仲良くなれるようななかよし会にするために、どんな遊びがあればよいか話し合いたい。

(2) 指導上の留意点

- ・ 日時については、あらかじめ教師の方で決めておく。
- ・ 今までの話し合いの意見をまとめた模造紙を、児童が見られる場所に貼っておき、いつでも児童が読めるようにしておく。
- ・ 前時で出された、議題・話し合いのめあて・決まっていること・なかよしポイントのたねについては、児童が見やすいように黒板の横に貼っておく。

(3) 本時の展開

| 観点 | 学習活動・予想される児童の反応 | 指導・支援(○)と評価(☆) | 時間 |
|----|--|--|-----|
| 導入 | <p>1 議題とめあてを確認する</p> <p>ぎだい 1年生ともっとなかよくなれる『なかよし会』をひらこう</p> <p>話し合いのめあて ・「なかよしポイントのたね」をもとに、なかよし会のあそびをきめよう ・友だちのいい見をよく聞いて、はつ言しよう。</p> <p>2 決定事項を確認・共有する</p> <p>・日時 9月13日(水) 2時間目 (9:35~10:20) ・場所 体育館 ・ゲームの時間は、ルール説明も含めて30分間(整列・休憩時間で15分ほど使うため)</p> <p>なかよしポイントのたね ・1年生とたくさん話せる ・ルールせつめいがみじかい</p> | <p>指導・支援(○)と評価(☆)</p> <p>○事前に、ワークシートに書かれた自分の考えが言えるように指導する。</p> <p>○全員が共通の意識をもって話し合いができるように、前時にみんなで考えた「なかよしポイントのたね」を確認する。</p> <p>・いっしょにあそべる ・名前をよべる</p> | 5' |
| 展開 | <p>3 話し合いをする</p> <p>だしあう(遊びを提案する) ・私は、王様ドッチがいいと思います。理由は、いろいろな人とチームになって、名前を覚えられるからです。 ・私は、人間ボーリングがいいと思います。理由は、1年生の名前や、好きなものが分かるからです。</p> <p>くらべあう(何の遊びにするか、出た案を検討する) ・王様ドッチは、前のなかよし会のとき</p> | <p>○事前に短冊を用意して見合っておき、出されている遊びを全員で共通理解できるようにしておく。</p> <p>○どんな遊びを考えたか、理由とともに児童に聞く。</p> <p>○理由等は板書せず、友達の意見をよく聞くことを大切にする。</p> <p>○出ている案に対して、自分の意見を出</p> | 30' |

| | | | |
|----|---|---|-----|
| | <p>にできなくて、1年生が悲しんでいたからやりたいし、王様を決めるときに、1年生とたくさん話せるからいいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンセントおには、1年生を助けることができるから、たくさん関われそうでいいと思う。 ・かくれんぼは、隠れる場所があまりないし、前もやった遊びだから、別の遊びにしたい。 ・チョコキの女王は、ルールが難しいから、楽しめないかも。 <p>まとめる（交流の内容を決める）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんの意見は、1年生ともっと仲良くなれそうでいいと思った。 ・前のなかよし会で、時間が足りなくなったから、説明が短い遊びがいい。 ・〇〇の遊びは、たくさん1年生とかかわれるからいいと思う。 ・いいなと思う意見が多いのは、〇〇だね。これは決定でいいんじゃないかな。 ・前、2つの遊びを合体させたよね。この2つって、合体できないかな。 <p>（「なかよしポイントのたね」に合った遊びがたくさん出て決まらないから、1年生にもやりたい遊びを聞いてみよう。）</p> | <p>し合い、出た意見を比べ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「〇〇さんの意見に続けて」と、友達の意見につながるように指名を工夫する。 ○「良いと思う」という意見には「○」、「もっと良くなる」という意見には「・」を付けてから板書し、一目で分かりやすいようにしておく。 ○もっと良くなる意見に対して、改善の意見があれば聞く。 ○「ルール説明も入れて、30分間遊べますが、どのように決めていきますか」 ○まとめられないときは、前回までの話し合いの経験で出た合意形成の仕方を思い出しながら、助言する。 ☆友達の見をよく聞いたり、自分の意見を言ったりしながら「なかよしポイントのたね」や互いの意見から比べ合い、折り合いをつけて決め出すことができる。（思考・判断・表現）【観察】 | |
| 終末 | <p>4 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかよしポイントのたねを考えながら遊びを決められてよかった。 ・〇〇さんの意見で、遊びが決まってきてよかった。 <p>（1年生に聞いたら、より1年生が楽しんでなかよくなれそうだ。）</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○決まってきたことを確認する。 ○今日の話し合いのめあての感想を述べる場を設ける。 | 10' |

【事後の活動】

| 学習活動 | 日時 | 児童の活動 | 指導上の留意点 | ◎目指す児童の姿 (観点)【評価方法】 |
|-----------|------|--------------------------|--|--|
| ④決めたことの実践 | 9/13 | 1年生ともっとなかよくなれるなかよし会の実施 | ・学級会で決まったことをもとに役割を分担し、協力して活動の準備をする。 | ◎合意形成したことをもとに、みんなで協力し、取り組んでいる。 (主体的に取り組む態度) 【観察】 |
| ⑤振り返り | 9/14 | 1年生ともっとなかよくなれるなかよし会の振り返り | ・自分の参加の姿を振り返るとともに、友達の良い所についても認められるように助言する。 | ◎1年生と仲良くなるために、めあてを意識しながら、協力して実践していたか気付く。 (思考・判断・表現) 【観察・振り返りカード】 |

【授業後のまとめ】

| 協議内容 | 出された意見 | 残された問課題 |
|------------------|--|--|
| 1 話し合う前までの段階について | <ul style="list-style-type: none"> ・話し合う必要感のある議題になっていた。 ・話し合いのポイントがはっきりしていた。 ・それまでの関わりがあったため、一年生のためという意識が育っていた。 ・事前に今日出し合う遊びや理由を書いてあったため、子どもたちは発表しやすかったり、担任は一人一人の考えを把握し、学級会を進めたりすることができた。 | |
| 2 出し合う場面 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちがやりたい遊びではなく、1年生が楽しめる遊びを出し合うことができた。 ・担任がつぶやきも拾えていたが、少数意見の理由を聞いてあげれば良かったのではないか。 ・意見が言えない子もいたので、グループやペアで意見を出し合うことも必要だった。 ・ひとりひとりの子どもの意見をだいじにしていてよかった。遊びの種類を初めからしぼるのではなく、全部の遊びを同列に扱うことで、子ども達も友達の意見を大切に | <ul style="list-style-type: none"> ・全体の場で意見が言えない子への手立て。 |

| | | |
|-----------------|---|---|
| <p>3 比べ合う場面</p> | <p>ようという意識が生まれていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の理由をよく聞いたり，最初の意見と変えたり，「よくない理由」を伝えたりできていたのではないか。 ・ 「比べる」から「比べ合う」ができているとよい。違う遊びでもなかよくなる視点が同じ場合があったため，そこを比べられるようにすると比べ合うになるのではないか。 ・ 焦点化が曖昧だった。何を比べるのかをもっとしぼる。今回なら「なかよしポイントの種」にしぼってもよかったのではないか？ ・ 友達の意見をよく聞き，自分の最初の希望とは違う遊びのよさも感じ，考えを変更するなどよく聞き，考えていると感じた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 板書が構造化されていると，比べ合う場面で，視点を明確にして比べることができたのではないか。 |
| <p>4 まとめる場面</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 合意形成の仕方から，子どもたちは多数決で合意形成の仕方を決め，代表じゃんけんに決まり，子どもたちも納得していたので，今回はそれでよかった。 ・ もっと理由を聞き合えば，話し合いで合意形成ができるようなクラスだったかもしれないと感じた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回は代表じゃんけんでもよかったが，話し合いでも合意形成ができるようにしていくこと。 |
| <p>5 振り返る場面</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回，どんなことをするか確認よりも，今日の話し合いでの振り返りが時間内にできるとよかった。 ・ 話し合いの中での良い子どもの姿を教師が価値付けした声かけがあるとなお良かった。 | |
| <p>6 その他</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して自己表現ができる土台がある学級経営だったからこそ，子どもたちも話しやすく，意見を出しやすかったのではないか。 ・ 子どもたちと先生，子どもたち同士の信頼関係のある学級経営をしていた。 | |

2. 特別活動実践事例集 委員の実践に学ぶ

事例 I

異年齢の児童同士が協力し、楽しむ児童会活動

東御市立和小学校

(1) はじめに

和小学校では、「学校の全児童をもって組織する児童会において、学校生活の充実と向上のために、諸問題を協力して解決しようとする自発的・自治的な態度を育成する」ことをねらいとして、主体的に活動できるよう取り組んでいる。

本校の児童会組織は、運営・放送・図書・清掃・運動・新聞掲示・保健・給食・環境・仲良しボランティアの10委員会で構成されている。児童会長及び副児童会長は、運営委員会を兼ねている。6学年では、委員長・副委員長・書記・フォロワーという4つの役割を示し、役員になっていない児童も共に児童会を盛り上げられるように意識付けをした。1年生を迎える会では、役員が児童総会の準備に専念できるよう、6年の寸劇発表は児童会長からフォロワーにお願いをし、フォロワーに行ってもらった。

| | |
|------------------|--|
| 委員長 (1名) | 委員会の中心となり、計画を立てる。 活動後、その成果や課題をまとめる。 |
| 副委員長 (1名) | 委員長の提案に基づき、委員会を進行する。 内容や時間について、おおよその目安を立てる。 |
| 書記 (1名) | 提案・意見・まとめなどをわかりやすく黒板に書く。 |
| フォロワー (その他全員) | 委員会活動を一緒に盛り上げる。 |

今年度児童会長選挙の際に児童会長、副児童会長の演説から

- ・仲良し（仲良し学級での活動）の時間だけでは、仲良し学級の友達と仲良くなれず、遊びをしていても楽しめない人もいた。
- ・仲良し学級や全校での活動を増やすことで全校が仲良くなり楽しい学校生活を送ることができる。

児童会目標

「仲間 ～仲良しになって絆を深める和小学校～」

各委員会ひとつずつ仲良しをテーマにした企画を行うことで全校の仲が深まることを目指した。

(2) 内容

- ・年度当初に6学年で各委員会毎集まり、どんな企画を行いたいかわかる時間を設けた。
- ・各委員会で委員長・副委員長が中心になり、どんな企画を・いつ行うか児童総会までに計画をたてる。

- ・仲良しボランティア委員会では、週1回、2時間目休みに体育館でレクを行う。
- ・考えた企画実現に向けて、企画書の作成、職員会での提案を行ってきた。
- ・なかよし祭り 仲良し学級のペアと行動を共にし、各委員会が考えた出し物に取り組む。

【仲良しボランティア委員会】

昨年度まで仲良しボランティア委員会の仕事は、アルミ缶潰しの当番活動と学期に2回ある「仲良しの計画」を行っていた。しかし、アルミ缶が毎日たくさん集まることもなかったので、「当番活動が楽」という理由で選ぶ子どもたちもいたため、仲良しボランティア委員会が児童会目標に関わりがあることから、当番活動を変えることにした。今まで行っていたアルミ缶潰しは、「アルミ缶集め大会」とし、年に1回アルミ缶を集めることに変更した。当番活動は、全校誰でも遊びに来て良いレクの運営をしている。委員を2グループにわけ、週に1回2時間目休みに体育館でレクの運営を交代で行っている。運営が無い週は朝の時間に各クラスに行き、呼びかけを行っている。初めのうちは人数も集まっていたが、徐々に遊びに来る人数が減ってきている。



【今まで取り組んできた仲良し企画】

運営委員会「七夕の飾り付け」

なかよし学級で1本の笹を用意し、短冊に願い事を書き入れ、なかよしペアで飾り付けを行った。短冊をペアで1枚用意し、ペアで表裏に記入するようにした。低学年で願い事が思い浮かばない子どもたちや文字が書けない子どもたちに高学年の子どもたちが優しく教えている姿が見られた。



図書委員会「本の読み聞かせ」

高学年が本を借りて朝の活動の時間に低学年に読み聞かせを行った。時間いっぱい読み聞かせができるように、2冊用意した。高学年は低学年がどんな本だったら興味を持ってくれるのか考えながら本を選んでいった。読み聞かせを聞いてもらえるように事前に練習したり友達に聞いてもらったりしながら準備を進めた。



環境委員会「仲良し学級とお花植え」

例年一人1つの花を環境系の先生が用意して下さり、自クラスの花壇へ花植をしていた。環境委員会の企画としてなかよし学級と一緒に花植を行った。自クラスの花壇となかよし学級の花壇にペアで花植えをした。高学年がやり方を低学年に教えながらペアで花植をした。花植だけで無く、その後の草取りや水やりなども一緒に活動するクラスも見られた。



新聞掲示委員会「和リンピック仲良しインタビュー新聞」

運動会で思い出に残ったことや楽しかったことを委員が仲良し学級にインタビューに行き、インタビューしたことをクラスごとまとめて掲示しました。

【これから考えている仲良し企画】

清掃委員会「ペア清掃」

運動委員会「全校逃走中」

保健委員会「仲良しはみがき」

(3) 成果と課題

児童会長の考えに沿いながら各委員会でどのような企画を考えたら学校全体の仲が深まっていくのか考えながら取り組むことで「児童会目標」が全校に周知された。また、役員が自分たちが考えたことを学校全体で取り組める嬉しさを感じることができている。

多くの仲良し企画を取り入れたことで仲良しペアとの交流は深まっているが、ペアではない子との仲の深まりや学年をこえた仲の深まりはまだまだ課題だと考える。今後の企画で更に仲が深まるように、役員に投げかけていきたい。

事例Ⅱ

主体的に学習に取り組む態度の涵養につながる実践について

上田市立第一中学校

(1) はじめに ～自分で考え行動したり、調整したりする力を育成するため～
「一人ひとりが伸びる第一中学校」の視点で本校の生徒たちを見つめたとき、私たち教職員は次のような願いをもった。

・「言われたことだけができる」「きめられたことだけをやっていけばいい」という受け身的な姿勢ではなく、これからの社会で生きていく子どもたちが、自分で先の見通しをもち、自分で必要な行動を選択することができる人になってほしい。

・自分の行動や生活を振り返ることで自分と向き合い、自分に必要なことを見つけて行動

②各自1教科再テストする教科を選択し、ロング一中タイム時に選択した再テストを行う。

〈授業内容①〉

①再テストに向けた計画を個人で立てる。

②実際に計画にもとづいて10分間の一中タイムで取り組む。

③取組を振り返り、修正を行う。友達にアドバイスをもらう場も設けていく。

〈授業内容②〉

①実際に再テストに取り組み、自己採点。その後、目標達成の理由や今後に向けて生かせそうな勉強方法について振り返る。

【私と子どもの歩み】

①「私と子どもの歩み」とは、上記取組から見えてきた子どもの姿、教師の関わりを記録に残しているもの。

②担任が何人か生徒を抽出し、生徒の様子や変化、その時の担任の思いや動きをまとめていく。

③まとめ方は自由。

(4) これらの取組から振り返り ～授業を参観していただいた指導者の先生方より～

①「私と子どものあゆみ」の記録が素晴らしい。

*抽出生徒を決めていること。(これがないと漠然として、手立てが必要なのか、手立てをした場合有効的だったかわかりづらい)

②「教師側の願い・手立て→生徒の反応→みとどけや更なる手立て」がわかりやすい。(教師側もPDCAサイクルをまわしている)

*学年，担任，教科担任，色々な先生のおかげで生徒に様々な芽が出始めている。

・自己分析の力・スケジュールリング力・メタ認知力・友と学び合う力 など

(5) 成果と課題 ～2学期に向けて～

①「私と子どものあゆみ」の記録を続け、教師が子どもたち一人ひとりを見ていく、捉えていくようにする。

②PDCAサイクルを、各教科や総合的な学習の時間の授業の中でも行う。

(課題→計画→実行(学び合い)→振り返りのサイクルを授業の中でも)

③一中タイムだけでなく日々の授業や・生徒会活動など、教師が指示を出すのではなくあらゆる教育活動を徐々に生徒に委ねていく。「放任」ではない。教師は子どもをできるだけ捉え「子どもを見取る」「子ども同士を繋げる」など)

事例Ⅲ

清掃指導と特別活動—学校全体で“清掃”を考える

上田市立川辺小学校

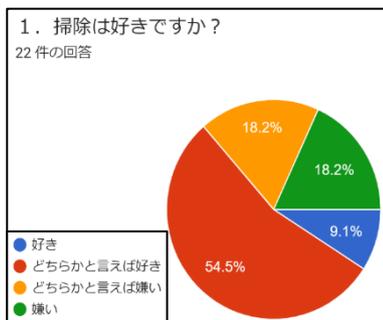
(1) はじめに

学習指導要領の中では「清掃」について、特別活動〔学級活動〕(3) 一人一人のキャリア
-特活12-

形成と自己実現：イ社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解の中で「清掃などの当番活動や係活動等の自己の役割を自覚して協働することの意義を理解し，社会の一員として役割を果たすために必要となることについて主体的に考えて行動すること」と示されている。つまり，学校をきれいにするのが目的ではなく，あくまでも社会性を身につける手段の一つとして清掃活動が位置付けられているのである。とはいえ，清掃は，それぞれの児童に役割があり，それを果たすために創意工夫することが可能かつ協働を必要とする点において，社会性を育むための手段として非常に適した活動であることが分かる。しかし，職員間で清掃について語り合ったり，実践を紹介し合ったりする機会はなかなか無い。そこで，職員間で清掃について考えるためのツールとして，不定期で，職員向けの「清掃通信」を発行することにした。その内容を紹介したい。

第1号のテーマは，清掃の意義と教育的効果。何のために清掃をしているのか，目指す姿は何かということ，学習指導要領を通して提案する内容である。職員全体で清掃の意義を共通理解できていない現状を鑑み，考えるきっかけとなればと思い投げかけてみた。第2号は，期末清掃の目的の共有と内容の明確化。何となくおこなれわれている期末清掃を少しでも充実させたいという願いで，児童向けのチェックシートを作成し，その内容と構成について説明する内容とした。第3号は，私の担任する学級で行った特別活動（3）の授業の実践紹介をした。以下は，第3号で紹介した授業の内容である。

（2）内容（清掃通信第3号に掲載した内容そのまま）



左は，5-3の児童対象の事前アンケートの結果です。意外と掃除好きが多いことにびっくりしました。ただ，5-3には36%の掃除嫌いの子がいます。この36%の子たちが少しでも前向きに掃除に取り組めるようにすることに焦点を当てて授業を行いました。

掃除が「嫌い」派の意見

- ・めんどくさいから。
- ・つまらないから。
- ・手が汚れるから。
- ・普段、家でもやっていないから。

掃除が「好き」派の意見

- ・きれいになって、気分がよくなるから。
- ・掃除をし終わって、部屋がきれいだとスッキリするから。
- ・終わったときに「きれいだな〜」や「やってよかったな〜」とか、いい気持ちになって、やってよかったと思える。
- ・ほうきでゴミをはいたりしていると**何故か楽しい**から。
- ・そもそもきれいにすることが好きだし、学校に感謝して掃除をしている。
- ・やるまでは嫌だけど、やり始めると止まらなくなるし、きれいになるからこそ好き。

導入ではまず，アンケートの結果をみて，掃除が嫌いと答えた人の理由をみんなで確認しました。子どもたちは頷きながら「わかる！」と共感していました。その後，「好きな人の考えが知りたい」と声が上がったので，好きと答えた人の理由も確認しました。「やり始めると止まらなくなるのはあるかも。」「なぜか楽しいってすごいな。」という声が上がってきたので，「毎日15分間もある掃除の時間を楽しいと思えるっていいよね。そっちの方が絶対に幸せだよ。でも楽しいって思えるにはどうすればいいのかな。」と，こちらから投げかけてみました。掃除が好きな子たちからは「その日のゴールと決めてみたらいいんじゃない。ここをきれいにするまでやるとか。」という考えがでてきましたが，嫌い派の子は「うーん。」という感じ。

ここで，みんなのヒントになるかもしれないよと，NHKの「プロフェッショナル仕事の流儀—やさしい掃除で心を込めて『世界一の清掃員』が目指すのは」を視聴しました。

視聴後，新津春子さんの清掃への取り組み方について，気づいたことを話し合いました。

「使う人への思いやりをもって清掃に取り組んでいるっていうのが心に残った。」「掃除場所は自分の家だと思っているっていうのがいいと思った。」「きれいにできないと悔しいって言った。」などなど、掃除のプロの姿に何かを感じたようでした。これは、子どもたちに気づいてほしかったのですが、出なかったので、こちらから「新津さんって掃除していて楽しそうだね。」と問いかけると、頷く子たちがちらほら。中には、掃除嫌い派の子もいました。そこで、「掃除のプロだから楽しいのかな、楽しめるからプロなのかな。」と問うと、「どっちも」という意見が多数。ここで、「じゃあ、みんなもプロになれば楽しめんじゃないかな。」と問いかけると、「確かに。」という声。ここで、【清掃のプロフェッショナルになるためにできることは何？】という学習問題が立ちました。（ここまでだいぶ誘導しています…。反省…。）

この後は、【それぞれの掃除場所で、今日からできそうなことを話し合う】という学習課題に取り組み、最終的に【自分にできそうなことを意志決定する】ことを目指しました。

★子どもたちのワークシートから（授業を終えての成果）

（3）成果と課題

清掃活動の指導は学級単位が基本となるが、職員で共通の認識を持ち、学校全体で指導に当たっていくことでより効果のある活動になるはずである。まだ実践を始めたばかりでその成果は見えてこないが、さらに児童向けの刊行物もしつつ、活動を広げていきたい。漠然とだが、取り組みを始めてから、少しずつクラスの児童の掃除への取り組み方が変わってきたように思う。1学期当初は掃除中に遊んでいたりと、座っておしゃべりしたりしている姿が目立ったが、最近では、ニコニコしながら真っ黒になったバケツの水を見せに来てくれる子や掃除で頑張ったことを報告してくれる子、空いた時間で他の場所を掃除しようとする子が増えてきた。今後もこの姿を価値づけていくとともに、通信を通して学校全体に広げていき、学校全体としての清掃活動の取り組みの向上につなげたい。

事例Ⅳ

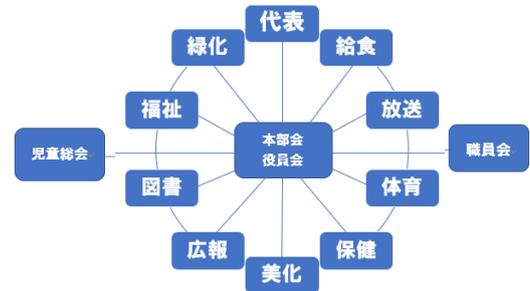
自ら考え、運営する児童会活動(特別活動)を目指した実践について

上田市立北小学校

【児童会活動の目標】

異学年の児童同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

学習指導要領 特別活動



北小児童会組織図

(1)はじめに

上田市立北小学校…全校児童 402 名，年 12 回の定例委員会

10 委員会+本部会で運営

昨年度の学校反省で職員から、児童の学校行事への参加意識を高めたい、北小への思いを持ってほしいという反省が多く出された。今年度は、それらを踏まえ、「児童が自ら考え、自分たちで学校を楽しくすること」をキーワードに児童会活動を行うことにした。

今年度児童会目標

「ハッピーマイル北小」(全校児童が笑顔になって、楽しい学校生活を送ってほしい。そして北小を好きになってほしい)

(2)内容

【運営について】



・各委員会のクラスルームを作り、児童会の連絡、議案書作成、アンケート、meet などクラスルームを使いながら共同編集をしたり共有をしたりして運営する。また児童会チャットルームを作り、リアルタイムで意見交換を行う。

・年 2 回ハッピーマイル北小月間(すべての委員会が「北小を好きになる」をテーマに企画を運営)

・年 4 回児童集会「遊びの広場」(朝の時間を使い 2 委員会ずつ分担して企画運営)

- ・年2回児童集会「遊びの大広場」(朝～1時間目を使い5委員会ずつ分担して企画運営)
- ・運動会で児童会種目を行う
- ・学校運営委員会に児童会三役し意見交換を行う(学校運営委員会では、運営委員の方へ、ハッピースマイル北小の紹介や児童会が企画していること、企画への協力の依頼、学校運営についての意見を伝えた。)

【企画について(一部)】

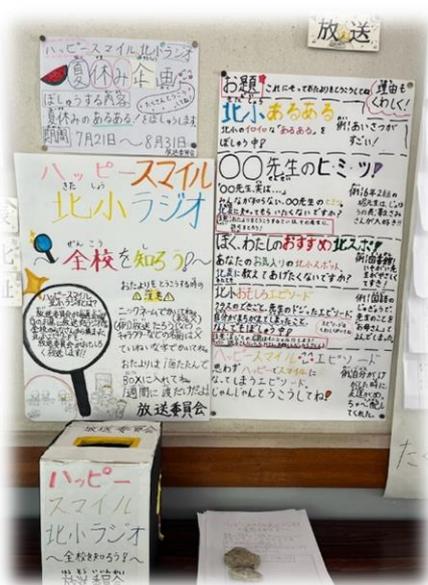


図書委員会「ハッピースマイルライブラリー」

月に一回、水曜日のハッピータイム(そうじなし、昼休み30分の日)に中庭で図書委員会による読み聞かせ、ビブリオバトルが行われている。毎回多くの児童が集まり楽しんでいる。図書委員会は「本を楽しむ場所や機会を増やしたい、みんなに本を通してハッピースマイルになってほしい」をねらいに活動している。

放送委員会「ハッピースマイル北小ラジオ」

毎週金曜日のお昼の放送で5分間ハッピースマイル北小ラジオを行っている。ラジオの内容は全校から集めたお便りを読んでいる。お便りは「北小あるある」「○○の秘密」「おすすめ北スポ(北小スポット)」「おもしろエピソード」を募集している。放送委員会は「全校のみんなが北小のことをどう思っているか、何が楽しいのかなどを知ること、より北小を好きになってハッピースマイルな生活を送ってほしい」をねらいにこの活動を行っている。



放送委員会「地域の方にインタビュー」

ハッピースマイル北小月間で放送委員会は「地域の方にインタビュー」の企画を行った。この企画では、地域の方へ「北小のいいところ」「ボランティアに来てうれしかったこと」「北小児童への願い」など、Googleフォームを使って募集した。回答はお昼の放送で紹介した。放送委員会は「地域の方の声を聞いて、北小をもっと好きになってハッピースマイルになってほしい」をねらいに企画運営を行った。

【学校行事について】

運動会「ほっしーの一日」「運営」

児童の行事への参加意識を高め、自分たちの学校行事であるという気持ちを高めるために、今年度は全校種目がなくなり、児童会種目が行われた。児童会種目は「ほっしーの一日」を行った。「ほっしー」とは、北小に受け継がれているオリジナルキャラクター。運動会前の全校体育では、種目の説明と練習を児童が行



い、当日も児童が運営を行った。内容は「だるまさんの一日」をほっしーに変えた内容で、ほっしーから出されたお題に全身を大きく使って表現した。放送席からは歴代の北小キャラクターたちが集まり、実況をした。また、運営面では、開閉会式は児童会が行い、来賓の案内状なども児童会が中心となって準備をした。

児童会遊びの大広場「北走中」

5月に朝～1時間目を使って児童会遊びの大広場で「北走中」を行った。今回の遊びの大広場は10委員会中5委員会が担当して企画運営を行った。内容は、逃走中と同じような鬼ごっこで、ハンターは3色のビブスを着て追いかける。つかまってしまった場合は、その鬼が着ていたビブスの色と同じコーンが校庭にあるのでそこへ集まる。そこでは、それぞれ3種類の



遊び(大縄・おにごっこ・だるまさんが転んだ)を行う。3分に一度ほっしーと復活じゃんけんをして勝ったら復活する。北走中は「全校で関わりながら遊ぶことを通して、北小の活動をみんなで楽しくして、ハッピースマイルな生活を送る」ことをねらいとして活動した。

(3) 成果と課題

- ・どの活動でも児童会目標に沿ってねらいを定めさせた。ねらいがあることで、子どもたちからはねらいに沿ったアイデアや方法が出された。
- ・運動会や児童集会などの行事を企画運営することで、全校のことを考えて行動する姿や北小全体を見る目線を持つことにつながった。一方、準備などで多くの時間を費やしてしまう部分もあり、どの程度児童が運営などに加わっていくのがよいのか検討が必要である。

五 研究のまとめと課題

教育課程研究協議会では、塩尻小学校の実践から、低学年期における学級会のもち方や進め方などの模範的な授業像、児童の思いや考えを大切にした主体的な学びの姿を参観させていただくことができた。また、午後の研究協議会においては、本委員会のテーマである「子ども一人ひとりの思いや考えを生かし、考えを深められる集団の育成」について実践事例を発表したり、各校における特別活動の工夫や悩みを討議したりした。久しぶりの通常開催となった教育課程研究協議会では、他校の先生方が一同に集い、学びや情報を共有できる充実した場となった。

また、年に数回実施した定期委員会において、各委員が実践事例を持ち寄り発表し合ったことは、互いの学びを深め、日々の授業に結びつく研究となった。次年度も互いの実践事例から学び高め合える委員会活動を継続していきたい。